

「目的」住宅内のカビやダニによる微生物汚染が皮膚炎、鼻炎、喘息などのアレルギー性疾患のアレルゲンになるとして問題になっている。太陽熱利用住宅はどちらかというところ省エネルギーに重点をおき、冬期の室温も低めであったりしてカビが発生する場合もある。このような住宅で年間にどのようなカビが生育するのかを調査する事を目的とした。

「方法」東京都杉並区の全面的に外断熱を行った比較的高気密、高断熱の太陽熱利用住宅（1982年竣工、RC造、戸建、B1、地上2階建て）で1995年に1年間カビの採取調査を行い、同定を行った。

住宅の窓でガラスを押しやっているガスケットや、タイル目地でカビを滅菌綿棒で採取しPDA培地に移し、恒温器で4日間培養を行った。またカビが生えている部位を1. 雑巾のからぶき、2. 雑巾のぬれぶき、3. カビ用洗浄剤によるふき取り、4. エチルアルコールによる洗浄の清掃方法により清掃し、その後の真菌数希釈法により測定し比較した。

「結論」この住宅では年間を通じてCladosporium属が最も多く検出された。その次にAureobasidium属、Alternaria属が多く検出された。特にガラス窓を押しやっている室内側のガスケットの上に発生しているカビが顕著に認められた。しかしこれもガスケット自体に生えているのか、またはガスケットの上に堆積した塵埃に生えたのかは定かでない。清掃方法ではからぶきやぬれぶきではそれほど効果は認められずカビ洗浄剤を使用した場合は効果が認められ、アルコールを使用して清掃した場合は真菌は全く検出されなかった。